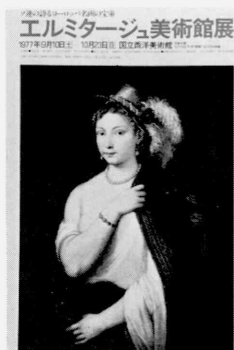


事業記録 昭和52年度

特別展記録



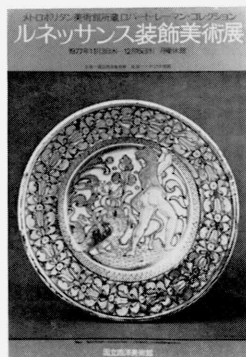
＊エルミタージュ美術館展

1977年 9月10日～10月23日

主催：国立西洋美術館・京都市・毎日新聞社

出品内容＝絵画42点

エルミタージュ美術館はルーヴル美術館に匹敵する大美術館で、代々のロシア皇帝が集めたそのコレクションは世界美術のほとんどあらゆる時代とジャンルにわたっており、さらにロシア革命の際に国有化されたものも含めてその総数は200万点にもものぼると言われる。中でもルネッサンスから近代に至るヨーロッパ絵画のコレクションはこの美術館の白眉とされて、質的にも量的にも極めて高い水準を誇っている。本展はその中から35点を選んだもので、16世紀のイタリア・ルネッサンスから18世紀のロココに至るヨーロッパ絵画の流れを概観しうる構成をとっている。またこれら35点のヨーロッパ絵画に加え、15世紀から18世紀に至るイコン7点も出品され、ロシア国民芸術の粋を示した。



＊ルネッサンス装飾美術展

1977年11月3日～12月15日

主催：国立西洋美術館

出品内容＝家具、陶器、小型ブロンズ像、七宝、宝石装飾、染色品等115点

ルネッサンスは建築、彫刻、絵画等のいわゆる大芸術の華やかな開花を見たが、それと同時に、個人主義的、人間中心的世界観が強まるにつれ、宮殿や個人の邸宅などに新しい生活文化の誕生を見た。本展はこうした生活文化を彩った装飾美術ないし工芸品を総合的に展示するもので、この時代の装飾美術がこのような規模で紹介されるのは我が国でも初めてのことである。これら115点の出品作はニューヨークの銀行家フィリップおよびロバート・レーマン父子が二代にわたって築きあげた大コレクションの中から選抜されたものであるが、このレーマン・コレクションは装飾美術の部門が特に充実していることで知られており、1975年にメトロポリタン美術館に寄贈され、以後一般に公開されている。

巡回展記録



*松方コレクション展

1977年10月15日～11月13日

主催：国立西洋美術館、奈良県立美術館、サンケイ新聞社

会場：奈良県立美術館

出品内容＝絵画（水彩、デッサンを含む）54点、彫刻16点

講演会記録

「エルミタージュ美術館展」特別講演会

1977年9月10日

〈エルミタージュ美術館展について〉

エルミタージュ美術館絵画部長 ニーナ・コサレバ

（通訳 東京大学教授 佐藤純一）

9月17日

〈ルネッサンスからバロックへ〉

東京芸術大学助教授 若桑みどり

9月24日

〈ブーサンからシャルダンまで〉

美術評論家 中山公男

10月1日

〈17世紀オランダの風景画と風俗画〉

ブリヂストン美術館長 嘉門安雄

10月8日

〈アイコンについて〉

早稲田大学教授 高橋栄一

（各回ともブリヂストン美術館と共催、於ブリヂストンホール）

所蔵作品の修復記録

——昭和52年4月より昭和53年3月まで——

1 ギュスターヴ・クールベ

《りんご》(P・1959—59)

油彩 カルトン 24.5×33.5 cm

状態概要: カルトンの四隅, 破損。従ってその周辺部の絵具層に欠損が生じていた。

修復処置: カルトンの破損の固定と充填。絵具層の欠損箇所の充填。いずれも蜜蝋・樹脂の混合接着材を含浸, さらに同じ材料を欠損部分に注入整形して充填材としても使用した。絵具層の充填箇所の補彩(デトランプ, テレピン精油で希釈した油絵具使用)。保護膜塗布(スプレー・タイプのセミ・マット・タブロー・ニス使用)。

2 ギュスターヴ・クールベ

《震にかかった狐》(P・1959—61)

油彩 カンヴァス 80×99 cm

状態概要: ニスの著しい黄変。ニス表面に雨垂れの跡が画面中程に左から右に走っている。既に裏打ちされており, その際の補彩部分が経年変化。(黒づんでいる)。

修復処置: 黄変ニスおよび古い補彩部分の除去。古い補彩部分の再補彩。保護膜塗布(タブロー・ニスを刷毛塗り)。

3 ギュスターヴ・クールベ

《波》(P・1959—62)

1870年頃 油彩 カンヴァス 72×92 cm

状態概要: 既に裏打ちされ, 裂傷などによる絵具層の欠損部分は補彩されている。その古い補彩は油絵具によって行われているが, 絵具に含まれている油の経年変化による色の黒ずみが目立ってきていた。さらに補彩部分およびオリジナルの絵具層に剝離が数箇所散見していた。ニス, 黄変。

修復処置: 絵具層の剝離箇所の固定(蜜蝋・樹脂の含浸による)。欠損箇所の充填(胡粉・ティタニウム・

ホワイトの顔料をポリビニールアルコールで練り合わせた充填材を使用し, 充填部分を蜜蝋・樹脂によって含浸固定)。黄変ニスの除去(テレピン精油, アルコール使用), 黒ずんだ補彩部分の除去(弱アンモニア, ナイフによる掻きおとし併用)。補彩(テレピン精油で希釈した油絵具使用)。保護膜塗布(タブロー・ニスを刷毛塗り)。

4 ジョルジュ・デヴァリエール

《聖母の訪問》(P・1959—82)

1912年 油彩 カンヴァス 77.5×163.5 cm

状態概要: カンヴァスの劣化と, 絵具層の脱脂の相乗作用で, とくに画面中央のブルシャンプルーの部分に大きな亀裂が生じた。横長の大きな画面は, 移動時等の振動によって大きく振れて, 前記の亀裂がいっそう拡大したものと推定される。

修復処置: 蜜蝋・樹脂の混合接着材による裏打ち。画面の洗浄およびリンシード油によって清拭して絵具層に油を吸着させる。欠損箇所の補彩(テレピン精油で希釈した油絵具使用)。保護膜塗布(スプレー・タイプのセミ・マット, タブロー・ニス使用)。

(以上は黒江光彦氏提供の資料に基いて作成した。)